

## 品質管理

## 基本的な考え方

ミウラグループは「ミウラグループ企業行動規範」に則って行動し、品質マネジメント宣言の実行を通じてお客様に役立つ技術に磨きをかけ、製品やサービスの品質を高めることによりお客様の信頼にお応えしています。

## 品質マネジメント

## ■ 体制と責任・マネジメントレビュー

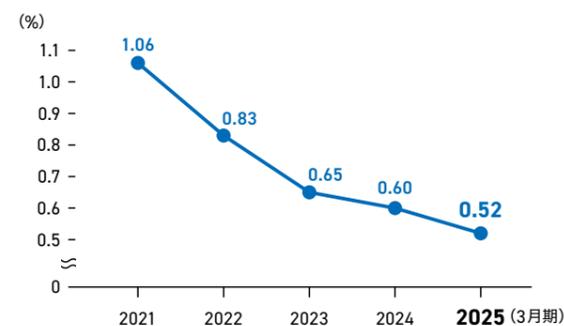
品質保証活動は、QMS 総括責任者（社長執行役員）が指名した事業統括責任者（取締役以上）が統括しています。また、事業統括責任者から任命された品質管理責任者は、品質マネジメントシステム（QMS）に則り、お客様のご要望に対する認識を高め、品質保証活動を推進しています。

品質マネジメントシステムの有効性、パフォーマンスについては毎年レビューし、次年度の活動につなげています。

## ■ 製品不適合などへの対応

クレーム費用内部売上高比率や緊急修理発生率をKPIとして、部門ごとにモニタリングを実施し、中長期的に製品不適合の改善やクレーム費用削減に努めています。製品・サービスに起因する情報はVoC (Voice of Customer) としてメンテ部門からインプットされ再発防止を図っています。

## ● クレーム費用内部売上高比率



## ■ 製品開発におけるリスクアセスメントの徹底

ミウラグループでは、製品の安全性を高めるためのリスクアセスメントを実施しています。設計・開発プロセスの早い段階から、製品のライフサイクル全般で発生すると予想される危険事象から、人および財産を保護するための保護方を検討し、最終的に製品に反映しています。

## ■ 品質に関する従業員教育の実施

QMS活動のさらなる浸透と各部門での自主的な運用につなげることを目的として、ISO9001内部監査員を増員するために137名に研修を行いました。

また、新入社員全員を対象とした品質保証の基礎に関する研修（147名受講）のほか、製品のリスクアセスメントを適正に行うことができるよう、主に技術者を対象としたリスクアセスメント研修（延べ80名受講）を実施しました。

## ■ グローバルな品質管理への取り組み

ミウラグループでは、2022年度より海外QMS構築活動を1歩進め、5年後目標に向かって活動をしています。また、製品については新製品製造時の製品の組み立て、品質管理方法について、日本同様の運用が定着できるよう、支援をしています。そのほか、出来栄えが品質に直結する溶接技術を競う「溶接コンクール」を実施し、国内外のミウラグループの溶接技術者の術向上と品質への意識向上を図っています。

## 時代に合った品質保証・品質管理へ

品質保証部 部長 藤田 隆志

近年、品質保証は、ISO9001を手本とした手順書に基づくプロセス管理のマネジメントシステムからデータや事実に基づく重点思考による改善が主流になっています。当社では様々な角度から品質をKPIとして捉え、中期・長期的にスコアを改善してゆく活動に取り組んでいます。お客様に安心＆満足して製品・サービスを長くご使用いただけるよう日々改善を進めてゆきます。

参照: ESGデータ <https://www.miuraz.co.jp/csr/esgdata.html>

## サプライチェーンマネジメント

## 基本的な考え方

ミウラグループは、お取引先との連携強化と責任あるサプライチェーンマネジメントの構築を重要な課題と考えています。優れた供給資材をより良い製品づくりに活かすとともに、お取引先との相互信頼、法令遵守、環境保全、人権尊重、腐敗防止等の取り組みを推進することで、持続可能な社会の実現に向けて、お取引先と協力の持続的な成長を目指していきます。

## サステナブル調達と推進体制

## ■ サステナブル調達

当社は、サプライヤーとの取引基本契約書に、「廃棄物削減、省資源、省エネ、リサイクルを推進し、地球環境に与える負荷の軽減に努める」旨を定めています。

2021年8月に「ミウラグループサステナブル調達ガイドライン」を制定し、サプライヤーへ周知し、ウェブサイトで公開しています。

## ■ 製品含有化学物質管理

ミウラグループは、環境に配慮した製品を社会に提供するため、「ミウラグループ グリーン調達ガイドライン（製品含有化学物質管理）」を2017年10月に制定しました。現在は、製品に含有される有害化学物質調査に取り組んでおり、自社ボイラ薬品についてはガイドラインに基づいた保証体制を整えています。

今後は調査対象範囲を拡大するため、サプライヤーの協力のもと、製品含有化学物質調査を推進していきます。

## ■ 調達におけるBCPの取り組み

2025年3月期は、海外サプライヤーのリスク管理やBCP基準における対象機器部品の再検討を行いました。来期には重要機能部品の安全在庫の見直し検討を実施します。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、サプライヤーが受注残を大量に抱えていたことで部品供給の納期遅延がみられましたが、情報共有による製造在庫と販売在庫の最適な調整で、製造・フィールドエンジニア活動の停滞はありませんでした。

2026年3月期は以下について取り組みます。

## ■ ミウラグリーンシフト（有害化学物質ゼロ宣言）に向けた部品調達、生産取り組みの推進継続

## ■ サプライヤーと連携した品質向上への取り組み

ミウラグループでは、生産統括本部を中心に設計・グループ製造会社・資材調達および協力会社の4部門で、常に品質向上に向けた四位一体改革を推進し、高品質・低コスト・短納期を実現する生産体制の構築を目指しています。

## 経営者会議

「TS（トップサプライヤー）優良製造会社認定制度」を2009年3月期より開始し、現在、TS8社と理念を共有し、QCDF\*の追求と、長年に亘る相互信頼・WIN-WINの関係を構築しています。さらに、当社、社長執行役員をはじめとした経営層とTS8社の経営者が参加する経営者会議を年1回開催し、品質向上・納期対応・コストダウンについて各社の目標、実績、自主点検結果を共有し、改善に向けた意見交換をしています。

\* QCDF: Quality (品質)、Cost (コスト)、Delivery (納期)、Flexibility (適応性)

## PC交流会 (Process Change for the better)

当社の設計・調達とTS8社および主要協力会社の担当者による製造方法の改善、設計の品質向上を図る活動です。本会を通して改善し、削減できた加工時間は、電力消費量に換算され、部品製作におけるCO2排出量の抑制に役立てています。その成果は経営者層に会議を通して報告をしています。

2025年3月期は、主要取引先TS8社に対してScope3の重要性を説明し、エネルギー使用量売上原単位、水使用量売上原単位のモニタリングを実施しました。来期は、前年度のモニタリング結果（実績値）に対する削減活動（削減率に応じてポイント付与）を実施し効果的に推進してまいります。

## ■ 「パートナーシップ構築宣言」への登録

当社は2021年7月に「パートナーシップ構築宣言」に登録し、サプライヤーとの共存共栄を進め、サプライチェーンの価値向上に努めています。

<https://www.biz-partnership.jp/index.html>